



2026年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年9月19日

上場会社名 サツドラホールディングス株式会社 上場取引所 東・札
コード番号 3544 URL <https://satudora-hd.co.jp>
代表者(役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 富山 浩樹
問合せ先責任者(役職名) 取締役CFO (氏名) 小西 憲明 TEL 011-788-5166
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年5月期第1四半期の連結業績(2025年5月16日～2025年8月15日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年5月期第1四半期	25,478	1.6	163	△29.1	153	△36.4	67	△35.2
2025年5月期第1四半期	25,087	4.6	230	1.4	241	30.9	104	12.2

(注) 包括利益 2026年5月期第1四半期 62百万円(△40.5%) 2025年5月期第1四半期 105百万円(3.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年5月期第1四半期	4.92	—
2025年5月期第1四半期	7.55	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年5月期第1四半期	46,901	9,847	20.7
2025年5月期	46,194	9,922	21.2

(参考) 自己資本 2026年5月期第1四半期 9,720百万円 2025年5月期 9,795百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年5月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2026年5月期	—				
2026年5月期(予想)		0.00	—	12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年5月期の連結業績予想(2025年5月16日～2026年5月15日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	102,000	1.8	1,800	7.5	1,700	3.1	800	58.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年5月期1Q	14,236,564株	2025年5月期	14,236,564株
2026年5月期1Q	475,909株	2025年5月期	475,909株
2026年5月期1Q	13,760,655株	2025年5月期1Q	13,845,387株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間（2025年5月16日～2025年8月15日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果もあり、景気は緩やかに回復しております。一方で、継続する物価上昇や米国の政策動向、金融資本市場の変動等の影響など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが主に事業を行うドラッグストア業界におきましては、各社の積極出店や品揃え拡大により市場規模が拡大する一方で、業界の垣根を越えた競争の激化や既存企業間の出店競争、M&Aによる寡占化のほか、物価の上昇や実質賃金の減少による節約志向の高まりなど、当社グループを取り巻く経営環境は厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは2026年5月期から2028年5月期までを対象期間とする中期経営計画を策定いたしました。本計画では「地域で稼ぐ体制づくり」をテーマに掲げ、「荒利率の改善」「販管費の抑制」「資本効率の改善」「株主還元強化」の4つを重点施策として推進し、既存事業の磨きこみと3年後の投資拡大を見据え、利益改善と投下資本のコントロールによりROE10%超を目指しております。

「荒利率の改善」としては、プライシング戦略のもと、当社ならではの低価格商品を取り揃えることで、お客様に選ばれる店舗づくりを進めております。同時に、市場価格との乖離のない適正価格を実現し、不必要な値下げを抑えることで収益性を高め、荒利率の改善に取り組んでおります。さらに、こうした価格戦略を支える土台として「サツドラ公式アプリ」を活用したデジタルマーケティングを強化しております。2022年1月にリリースした同アプリは、累計110万ダウンロードを突破し、日常のお買い物をより便利で楽しくするツールとして、来店頻度の向上や顧客接点の拡大に繋がっております。

「販管費の抑制」としては、人件費や資材価格の高騰などの影響を受けるなか、専門部署を設けて業務プロセス改革を進めるとともに、組織横断のDXに取り組み、業務効率化とコスト削減を進めております。その一環として統合型コラボレーションツールを全社に導入し、これまで分散していた社内コミュニケーションや各種手続きを集約しました。こうした取り組みを基盤に、グループ全体の安定した収益力の確保を目指しております。

「資本効率の改善」としては、事業資源の選択と集中を進めており、当期は収益性の低い2店舗を閉店いたしました。また、成長分野ではECの開発を進めており、リアル店舗と連携し、低資本でも高収益を実現できる新たな収益モデルの構築に取り組んでおります。

「株主還元強化」としては、1株当たり年間10円を下限とし、将来的には連結配当性向30%を目指し、継続的な配当を実施する方針としております。さらに、コーポレートガバナンスの取組みとして、2025年6月4日の取締役会において取締役の個人別報酬等の決定方針を一部改定し、役員報酬制度を見直しております。経営陣が中長期的な企業価値向上にコミットできるよう、短期業績と中長期的な企業価値向上の両面を意識した報酬設計により、その実効性を高めております。

また、当社グループは地域との結びつきと持続可能な成長に向けた事業基盤を強みとしており、その象徴である北海道共通ポイントカード「EZOCA」の会員数は230万人を突破し、提携店も300社（1,100店舗）を超えるなど、EZOCA経済圏は拡大を続けております。さらに、2025年7月には、当社4例目となる自治体還元型ポイントカード「ひだかEZOCA」を導入し、買い物金額の一部を町に還元する仕組みにより、「官×民×地元商店街」が連携した持続可能なまちづくり支援の形に取り組んでおります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は254億78百万円（前年同期比1.6%増、3億90百万円増）、営業利益は1億63百万円（同29.1%減、67百万円減）、経常利益は1億53百万円（同36.4%減、87百万円減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は67百万円（同35.2%減、36百万円減）となりました。

セグメント業績などの概要は、次のとおりであります。

なお、前連結会計年度末より報告セグメントの区分を変更しており、前年同期比較につきましては、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等の注記）」に記載しております。

<リテール事業>

主に北海道内でのドミナント化を目指したドラッグストアフォーマット店舗と調剤薬局店舗のチェーン展開に加え、訪日外国人が多く訪れる観光地などでのインバウンドフォーマット店舗の運営を中心に行っております。また、調剤薬局においては、調剤専門薬局の運営に加え、ドラッグストアフォーマット店舗での調剤併設薬局も行っております。

当第1四半期連結累計期間において、ドラッグストアフォーマットは、物価上昇による生活防衛意識の高まりを受け、1人あたりの買上点数と客数は減少しました。一方で、商品単価の上昇に加え、食品カテゴリーやビューティケアカテゴリーが伸長した結果、ドラッグストアフォーマットの売上高は前年同期を上回りました。

インバウンドフォーマットにつきましては、訪日外国人観光客の需要を取り込むこととともに、インバウンド向けのキャンペーンや送客施策を展開したことにより、売上高は前年同期を上回りました。

調剤薬局につきましては、前期に開設した調剤併設薬局の増収効果などにより、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、リテール事業の売上高は250億38百万円（前年同期比1.4%増、3億45百万円増）、セグメント利益は、補助政策の終了に伴う電気料金の上昇に加え、賃金のベースアップや人手不足による人件費関連のコストが増加した結果、1億9百万円（同49.3%減、1億6百万円減）となりました。

店舗の出退店の状況につきましては、下表の通りとなりました。

（出店状況）

店舗区分	フォーマット区分	2025年5月 期末	増加	減少	2025年8月 度末
ドラッグストア店舗	ドラッグストアフォーマット （うち 調剤併設薬局）	180店舗 (22店舗)	— (—)	2店舗 (—)	178店舗 (22店舗)
	インバウンドフォーマット	10店舗	—	—	10店舗
調剤専門薬局店舗	調剤専門薬局	9店舗	—	—	9店舗
合計		199店舗	—	2店舗	197店舗

<マーケティング事業>

主に北海道共通ポイントカード「EZOCA」を活用した地域マーケティング事業や決済サービス事業を行っております。「EZOCA」の会員数は、230万人を突破し、提携店も300社（1,100店舗）を超えるなど、EZOCA経済圏は成長を続けております。決済サービス事業においては、国内キャッシュレス決済を中心に引き続き堅調に推移いたしました。

以上の結果、マーケティング事業の売上高は4億98百万円（前年同期比8.7%増、39百万円増）、セグメント利益は、自社決済サービス「EZOPay」の開発費用が影響した結果、2百万円（同86.6%減、15百万円減）となりました。

<その他事業>

ユーザー目線での課題解決を目指したPOSアプリケーションなどの開発・販売や当社既存事業とのシナジーや新規事業創出を目指すCVC事業などを行っております。

その他事業の売上高は51百万円（前年同期比16.8%増、7百万円増）、セグメント利益は10百万円（同77.8%増、4百万円増）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ7億6百万円増加し469億1百万円となりました。これは主に、現金及び預金が3億79百万円、商品が4億77百万円それぞれ増加したことなどによるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ7億81百万円増加し370億54百万円となりました。これは主に、短期借入金が2億円、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が4億38百万円減少したものの、買掛金が8億91百万円、未払金が8億8百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ75百万円減少し98億47百万円となりました。これは主に、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益により67百万円増加したものの、配当金の支払いにより1億37百万円減少したことなどによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年5月期連結業績予想につきましては、2025年6月20日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年5月15日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年8月15日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,669	3,049
売掛金	3,336	3,214
商品	10,467	10,945
その他	5,222	5,222
流動資産合計	21,696	22,431
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,086	8,912
土地	4,048	4,048
その他（純額）	1,669	1,756
有形固定資産合計	14,804	14,718
無形固定資産	946	1,019
投資その他の資産		
敷金及び保証金	6,462	6,406
その他	2,295	2,337
貸倒引当金	△11	△11
投資その他の資産合計	8,746	8,732
固定資産合計	24,498	24,470
資産合計	46,194	46,901

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年5月15日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年8月15日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,871	10,763
短期借入金	200	—
1年内返済予定の長期借入金	1,732	1,712
未払金	5,367	6,176
未払法人税等	90	85
賞与引当金	677	478
その他	1,200	1,157
流動負債合計	19,139	20,373
固定負債		
長期借入金	13,704	13,286
退職給付に係る負債	671	679
資産除去債務	824	826
その他	1,932	1,888
固定負債合計	17,132	16,680
負債合計	36,272	37,054
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,003	1,003
資本剰余金	2,107	2,107
利益剰余金	6,982	6,912
自己株式	△337	△337
株主資本合計	9,754	9,685
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3	3
繰延ヘッジ損益	13	14
為替換算調整勘定	△64	△64
退職給付に係る調整累計額	88	80
その他の包括利益累計額合計	40	35
非支配株主持分	126	126
純資産合計	9,922	9,847
負債純資産合計	46,194	46,901

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年5月16日 至 2024年8月15日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年5月16日 至 2025年8月15日)
売上高	25,087	25,478
売上原価	18,918	19,086
売上総利益	6,168	6,391
販売費及び一般管理費	5,937	6,227
営業利益	230	163
営業外収益		
受取利息及び配当金	5	6
固定資産受贈益	1	—
助成金収入	8	15
その他	36	37
営業外収益合計	51	58
営業外費用		
支払利息	40	63
支払手数料	0	1
その他	0	3
営業外費用合計	41	69
経常利益	241	153
特別利益		
関係会社株式売却益	1	—
特別利益合計	1	—
特別損失		
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	0
税金等調整前四半期純利益	242	152
法人税等合計	131	84
四半期純利益	110	68
非支配株主に帰属する四半期純利益	5	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	104	67

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年5月16日 至 2024年8月15日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年5月16日 至 2025年8月15日)
四半期純利益	110	68
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	0
繰延ヘッジ損益	△4	0
為替換算調整勘定	0	0
退職給付に係る調整額	△0	△7
その他の包括利益合計	△4	△5
四半期包括利益	105	62
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	99	62
非支配株主に係る四半期包括利益	5	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年5月16日 至 2024年8月15日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書 計上額 (注) 3
	リテール 事業	マーケティ ング事業	計				
売上高							
ドラッグストア	21,781	—	21,781	—	21,781	—	21,781
インバウンド	1,389	—	1,389	—	1,389	—	1,389
調剤	1,122	—	1,122	—	1,122	—	1,122
マーケティング	—	47	47	—	47	—	47
決済サービス	—	322	322	—	322	—	322
その他	204	—	204	21	225	—	225
顧客との契約から生じる収益	24,497	369	24,867	21	24,888	—	24,888
その他の収益	183	—	183	14	198	—	198
外部顧客への売上高	24,681	369	25,051	36	25,087	—	25,087
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11	88	99	8	108	△108	—
計	24,692	458	25,151	44	25,195	△108	25,087
セグメント利益	215	18	233	5	239	△8	230

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ITソリューション事業等を含んでおります。

2. 調整額には、報告セグメント間の損益取引消去及び持株会社運営に係る費用が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2025年5月16日 至 2025年8月15日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書 計上額 (注) 3
	リテール 事業	マーケティ ング事業	計				
売上高							
ドラッグストア	21,978	—	21,978	—	21,978	—	21,978
インバウンド	1,460	—	1,460	—	1,460	—	1,460
調剤	1,271	—	1,271	—	1,271	—	1,271
マーケティング	—	34	34	—	34	—	34
決済サービス	—	372	372	—	372	—	372
その他	131	—	131	28	159	—	159
顧客との契約から生じる収益	24,842	407	25,249	28	25,277	—	25,277
その他の収益	185	—	185	15	200	—	200
外部顧客への売上高	25,027	407	25,434	43	25,478	—	25,478
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11	91	102	7	110	△110	—
計	25,038	498	25,537	51	25,588	△110	25,478
セグメント利益	109	2	111	10	121	41	163

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ITソリューション事業等を含んでおります。

2. 調整額には、報告セグメント間の損益取引消去及び持株会社運営に係る費用が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度末より、従来「その他」に含まれていた「マーケティング事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年5月16日 至 2024年8月15日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年5月16日 至 2025年8月15日)
減価償却費	316百万円	356百万円